

代 表 者
林 田

行政視察報告書

令和6年3月29日

会派代表者 殿

呉市議会議員

林田浩秋

梶山政孝

沼田一雄

田中みわ子

佐伯航一郎

片岡慶行

次のとおり行政視察したので報告します。

1. 視察期日

令和6年3月26日（火）～28日（木）

2. 調査項目

愛媛県新居浜市 「シティプロモーションの取組について」

愛媛県東温市 「東温市の移住定住支援の取組について」

愛媛県松山市 「松山アーバンデザインセンターについて」

3. 参加議員

林田 浩秋, 梶山 政孝, 渡辺 一照, 田中 みわ子, 佐伯 航一郎, 片岡 慶行

4. 随行者

なし

愛媛県新居浜市

■調査項目

シティプロモーションの取組について

・調査対応者

新居浜市企画部総括次長兼シティプロモーション推進課長 鈴木 今日子
新居浜市企画部シティプロモーション推進課副課長兼シティブランド係長 吉岡 奈津子
新居浜市企画部シティプロモーション推進課主事 小野 和真

・調査期日

令和6年3月26日（火）14時00分～15時30分

・新居浜市の概要

人口 : 113,825人
世帯数 : 57,476世帯

・調査内容

新居浜市は、別子銅山から繁栄し、住友関係の工場群が形成され、臨海工業都市となり、昭和12年市政施行しました。

別子銅山跡地や、新居浜太鼓まつりを市の集客ポイントとしています。

この度の「シティプロモーションの取組について」ですが、シティプロモーション推進課の役割として広報部門とプロモーション部門が同じ課となったメリットを生かすために、

- ① 効果的・効率的な情報発信体制の構築
- ② パブリシティの強化
- ③ 職員のスキルアップ

上記役割があります。

若者世代をターゲットとした施策が重要です。

- ① 市内の高校生、新居浜市出身の大学生等、大学卒業後新居浜市内の中小企業に就職した人（30歳以下）から情報を取得する。
- ② 新居浜みらい会議を開催

新居浜みらい会議は、愛媛県新居浜市で開催されている会議であり、市の魅力や個性を市内外に発信し、市の良いイメージを高めるために、市民と行政が連携してシティブランド戦略を推進することを目的としている。

③ ふるさと新居浜便

新居浜から出ていった若者と繋がっていくために、大学生等に「ふるさと新居浜便」という新居浜の特産品（3,000円ぐらい）を送付する。

④ 奨学金返済支援事業

U・I・Jターンする方に最大60万円を支援する企画で、毎年50人から60人が支援を受け、7,000万円から8,000万円を支給しています。

以上のような特別な企画が、興味を抱きました。
人口減をできるだけ抑える取組だと思いました。
呉市行政も用いることができればと存じます。

愛媛県東温市

■調査項目

東温市の移住定住支援の取組について

・調査対応者

東温市産業建設部専門監兼地域活力創出課長	山本 一英
東温市産業建設部地域活力創出課課長補佐	桑原 和宏
東温市産業建設部地域活力創出課地域振興係係長	宮崎 朋子
東温市産業建設部地域活力創出課主査	安井 龍也

・調査期日

令和6年3月27日（水）14時00分～15時30分

・東温市の概要

人口 : 33,157人
世帯数 : 15,621世帯

・調査内容

東温市は、松山市のベッドタウンとして発展してきました。

石鎚山の麓にもなり、愛媛大学医学部があり、住みやすい街ランキングも県内2位となっています。

移住定住促進に向けた施策について、移住関連の情報発信に東温市に住みたいと思わせる手立てとして

- ①生活関連情報
- ②居住地に関する情報
- ③仕事に関する情報
- ④先輩移住者の声

上記の件が重要になってきます。

定住支援ポータルサイトを開設し、暮らしの体験談、働く人インタビュー、空き家バンク情報、移住体験ツアーなど、移住・定住に向けたオンリーワン戦略として「ぼっちゃん劇場」「東温アルプス」などの東温市の原石をより、スクリーニングしていくことが必要とされています。

移住・定住に向けた総合窓口の「移住コンシェルジュ」によるワンストップの対応で全市で取り組んでいる体制には、見習うものがあります。

プロモーションビデオの東温市の紹介で、愛媛県出身の友近さん等が、ドラマ的に地域紹介をしていく状況が、大変面白く興味をそそるビデオでした。

愛媛県各市このようなことをしていますとの事なので呉市も用いるよう進言したいと思います。

愛媛県松山市市

■調査項目

松山アーバンデザインセンターについて

・調査対応者

松山アーバンデザインセンター ディレクター 渡邊 浩司

・調査期日

令和6年3月28日（木）10時00分～11時00分

・金沢市の概要

人口 : 500,878人

世帯数 : 244,028世帯

・調査内容

松山アーバンデザインセンターディレクターの市役所職員の渡辺浩司さんの説明を受けました。

アーバンデザインセンター（UDC）の理念とは、未来創造型まちづくりのための公・民・学連携プラットフォームです。

運営体制は、松山市都市再生協議会と松山アーバンデザインセンター（愛媛大学、一般社団法人松山アーバンデザインネットワーク）との相互運営です。

役割としては、創る、学ぶ、交わる、知るの4つの役割があります。

「創る」は、都市空間デザイン・マネジメントや歩いて暮らせるまちづくりをコンセプトにしています。

具体的には、花園町通りをシンボルロードに社会実験を行った結果、歩行者数も2倍に上がり、地価も上昇に転じたそうです。

「交わる」は、「もぶるラウンジ」、尾外街路の利活用、「花園町オープンテラス」などの社会実験、

「学ぶ」は、「UDSCスクール松山2023」の活動など

「知る」は創ると交わると学ぶの3つを発信することです。

松山市の担当者からは、呉市からもアドバイスをもらった部分もあるという事でした。

松山市の駅からのメイン通りが、市の道路だったこともあり、自由がきいた部分でもあったという事があります。

通は、広く開放され、歩行者も多くなり、呉市の駅前広場や中通再開発にも勉強になる一面がありました。